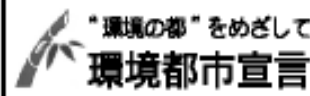


環境の都ニュース

2015. 7. 1 NO. 82



発行：長岡京市
環境の都づくり会議
発行責任者：江川 宗治
編集担当者：西村日出男

竹とともに

ビオトープPJT 奥西弘武

「地域のために何かできることがないか」「その中で何かに通じ合う仲間と行動ができればよい」との想いでいくつかの団体に属してみた。それから13年目を迎えることになる。そのひとつである「環境の都づくり会議」の一会員として当時を回想し、何ができたのか。これからは？を探りたい。

【仲間と環境意識を共有】はじめは会の流れに沿ってみようと考えていたが、この会も当時は具体的に何をやるかのテーマが無い状態であった。長岡京市の移動窯を借りて竹炭焼きをやろうとしていることを知り参加した。初めはその装置への興味本位であったが、他の団体にも合流参加して時間と手順を惜しまなければうまく焼けることを体得し、自分の性分にも合ったものだと思った。やがて材料となる竹を確保するためと窯を設置場所を得るために放置竹林を借りることにした。メンバーを増やすことに奔走し、幸い同年代のメンバーが増えた。

しんどいことも多いが決して嫌いではない。「ここに来れば仲間がいる。山で弁当が食えるなんて最高！。小川っていいなあ。水は森からだヨ。」こんな言葉が飛び交うのは戦中派といわれる年代の集まりにだからか？子供の頃の郷愁なのか？不確かな迷いは感じた。だが、放置竹林を整備することは地球環境破壊を食い止める一助（里山への侵食防止と生き物の生態系、森林の保水力保全）になるんだと位置付けたことと地域の景観が飛躍的に改善できたことは大きな説得効果があった。環境ボランティアをしているんだと共感できた。

【強力な推進力】メンバーも増え、活動分野を「竹林再生」、「ビオトープ」、「花を咲かそう」のPJTに分け、それぞれの企画を持って進めることになる。但しメンバーは殆ど重複し常に連帯感を維持できている。

受託する竹林は8箇所に広がり、有り余る古竹も焼却を控えてチップー機で粉碎する手段も一部導入した。さらには大人も子供も自然に親しめる「憩いの森」を開設するまでに至った。竹炭作りはビオトープが担当し、自前のドラム缶窯を設計製作し、現在3代目の装置が稼動中である。焼いた竹炭は各種イベントに提供したり竹林や菜園、花壇の土壌に還元し有効利用されている。仕事でかかわった市の施設の花壇整備を積極的に進めたり、すすく教室では小学生たちに川や竹林などで自然環境教育を実施し定着化している。それぞれの持ち前を発揮して次々と実現するさまは想像以上であり、ややオーバーワークの感もあるが、みなさんの想いがこのような形となり、私にとっても当初の期待以上の活動の場に居り、満足に浸っているのである。

【器はそろった。持続する活動のために】当会の悩みはメンバーの高齢化であり、受け継ぐ世代の参加が得られていないことである。これまでの活動舞台（全て借り物）を我々だけの一時の楽しみ事では済まされない。これらを使い有形無形の発信ができるルール（ソフトウェア）をセットしておくことが急がれる課題である。



竹炭をふんだんに与えたトマト畑

【竹の復権】「日本は世界で最も早く竹材の利用を放棄した国とされている」竹林に携わる者として聞き捨てならず、「待った」を掛けたいのである。竹林もCO₂削減の効果は樹木並にある。筍も採れる。枯化伐採してもすぐに新竹が生まれる。一方大量に発生する古竹は腐らして土に戻すには5年ほどかかるし燃やすとCO₂が発生して目の敵にされる。

しかし炭化させると大部分が炭素（C）として残る。これを炭素固定といふ有効なCO₂対策となる。（但し、竹を加熱するための燃料によるCO₂はいくらか発生する）竹炭は消臭、調湿剤、農土の改良剤として有効とされている。がまだまだ未知の可能性がある。目下これを畑栽培と比較しながらトマトの礫耕栽培に使おうと準備中である。試行錯誤を楽しみます。



自作ドラム缶窯1号機



長岡第四小、たけのこ授業

ビオトープと竹林再生PJTでは6 /17、昨年に引き続き、3年生 65名を対象に、総合学習の時間に出前授業を行いました。テーマは“たけのこ博士になろう！”。全体授業では、竹林と樹木のバランスをとることが生き生きとした豊かな自然を守るために大切である事をお話しし、その後、子供たちが用意したテーマごとに6つのグループに分かれ、約30分、熱心に楽しくタケノコの勉強をしました。日頃はノコギリ片手に現場での力仕事に明け暮れていますが、この日は孫の世代の子供たちを相手に勝手が違い、子供たちの意表を突く質問に冷や汗をかくシーンも・・・。

それでも、個性豊かな我がPJTの面々の工夫を凝らした授業に子供達から感謝の声を頂きました。われわれにとっても良い刺激になり、いい勉強になりました。これを機会に、子供たちが尚一層身の回りの自然環境に目を向け、いつか我々の活動の後継者になってくれることを楽しみにしながら小学校を後にしました。



ビオトープPJT 神山 忠



魅せる女性パワー

花を咲かそう P J T活動報告 記事 奥西

6月4日 西山公園体育館の二階庭園と中央公民館に花苗の植え替えをしました。450株の苗は参加した17人の手により施設の来場者をお迎えするエンターテイナーにうまれかわります。体育館の二階庭園にはピンク系の日々草と黄金のマリーゴールドが若葉カップに参加する全国小学生を迎え、公民館ではペチュニアのポットとトレニアの花壇が池を背景にした憩いの広場を私たちに代わり演出します。



慎重に花の配置



勢揃い



後ろは池だよ



金ヶ原憩いの森に歓声

6/20、時期的に雨を心配していましたが朝から太陽が出る暑い日になりました。長法寺小学校すくすく教室の子供達16名と学校スタッフ7名がアスレチックの森に来てくれました。この森は元々里山でしたが放置竹林が侵食して森の姿が消えようとしていましたが私達竹林再生メンバーが3年がかりで整備して昨年秋にオープンした所です。立木にロープを張ったターザン滑り・ハンモック・ブランコ等7つの遊び、



その他里山を巡る探検の道・弓による的あて・竹を切り竹ポックリを作る体験、更には非常時のトイレの体験等短い時間でしたが自然の中で戯れて自然を満喫してくれました。

願わくは今日の元気な子供達が我がふるさと長岡京市の西山に少しでも関心を持ってくれれば私の流した汗も少しは報われ事でしょう。

地域の子供達も遊びに来て下さい。

(湯川・渡辺)





花や虫がいっぱい、西山春の自然観察 平成27年度 第1回 西山ファミリー環境探検隊

平成27年4月29日(水・祝)9時30分～15時 西山森林整備推進協議会主催

参加者: 総勢95名 15家族52名(子ども28名、大人24名)

NPO法人自然観察指導員京都連絡会6名、京都府立大学森なかま18名、里山再生市民フォーラム6名、環境の都づくり会議4名(中田、古澤、柳沼、加藤)ほか ※京都新聞の取材がありました。

内容

西代橋、立石橋、キャンプ場、パオの森のルートで自然観察、豚汁・バウムクーヘンづくり、森あそびをしました。炊事や参加者に幼児も多かったのですが森なかまさんがしっかりサポートしてくれました。

(自然観察)

山の中腹ではウラジロ飛ばしに挑戦。ふんわりと風に乗ったウラジロに歓声が上がりました!

モチツツジの葉やつぼみに触ってみると...その名のとおり、もちもちと粘り気のある感触。この粘液で虫から身を守っています。

どこを歩いていても気になったのが、至る所にぶら下がったシャクトリムシ!

毛虫は刺されるけど、シャクトリムシは触っても大丈夫。よく見ると色んな「柄」と「形」があって、虫好き兄弟は新しい種類を見つけるたびに嬉しそうに報告してくれました。その日だけで10種類以上のシャクトリムシを見つけたそうです。昼食後今日の観察結果を自然観察指導員さんから詳しく説明してもらいました。

(バウムクーヘンづくり)

先行班の皆さんが汗をかきかきやって下さっていたバウムクーヘン作りに興味津々! 昼ごはんの誘惑にも負けず、率先して生地をかけたリクルクルと竹筒を回してくれる子どもがたくさんいました♪みんなで作ったバウムクーヘンが完成。班ごとに記念撮影をして、切り分けます。手作りなのに、くつきりときれいな年輪ができていて感動!

しっかりたまごの味がする美味しいバウムクーヘンをいただきました。

里山再生PJT 加藤



環境教育 PJT



第80回 環境教育ミーティング

(平成27年度のテーマ: 自然と環境)

子どもに蒔いた『自然体験』の種のゆくえ

～自然体験は「生きる力」を育むのか～

(ネイチャーゲーム室内体験つき)

参加 無料

日時: 平成27年 7月16日(木)

夜7～9時

会場: 長岡京市立 中央公民館 2階・講座室

講師: 数井美智子さん

2010年
京都府地球温暖化防止活動推進員

くらしの安心・安全推進員

2013年
大阪府立環境農林水産総合研究所 (地独)

環境情報プラザ、大阪環境パートナーシップ

ネットワーク「かけはし」担当

★子ども時代に豊富な自然体験活動を経験した視点と、20年間の自然体験指導員(ネイチャーゲーム等)の視点から、その効果・影響について感じていることをお話します。

★自然を身近に感じられる「ネイチャーゲーム」を室内で体験。



子どもたちの目キラキラ★自然のパワー実感 ゆりかご保育園 6月5日環境の日イベント

環境の都づくり会議メンバー・長岡京市環境業務課の出前授業の取り組みを環境の日にあわせて行いました。

乳児の子どもたちは、水の大切さや土・風・光の力を体感しました。保育士のペープサートを見た後、自転車で車輪をこぐと動き出すNゲージやおもちゃに大歓声!中庭では、大きなしゃぼん玉が、風によって飛ぶと、両手を大きく広げて走り出していました。



清掃車にごみを投入する様子

幼児の子どもたちは、デジタル紙芝居やごみの分別の仕方から物の大切さを学び、大きな清掃車にごみを投入する働く職員の姿から、「いつもありがとう!かっこいいな!」と感謝の言葉や憧れの思いのつぶやきが聞こえました。子どもたちの目が輝きを増し、五感を通じて楽しい学びの日となりました。



中庭でのシャボン玉あそび

エコチーム 高橋由紀子



トピックス



6月は環境月間であり、全国で色んな行事がありました。長岡京市が主催等の関わりを持つ行事としても「1日省エネ相談所」(環境の都エコチーム会員が協力)、講演会「里山の今後のあり方」、「みどり笑顔のつどい」、「ホタル観賞のタベ」などがありました。

今年の小泉川周辺ホタル飛翔状況について「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」の事務局に伺った話では、「例年より早い飛び始めた。新しく会場となった金ヶ原橋付近ではホタルが人の多さに驚いたのか数が少なくて残念でした。今年はパトロール調査の結果、小泉川上流の西代橋付近にはホタルが多く見られました。」とのことでした。

【追記】- 広報長岡京7/1号から - 『京都府 環境保全功労者表彰』を、当会会員の田原 誠一郎さんが受賞! 大変おめでとうございます!! (記事 江川)

★★★ 環境の都づくり会議のプロジェクトと連絡先 ★★★

プロジェクト名	内容	連絡先	TEL
里山再生PJT	里山再生	加藤 克巳	951-0933
環境教育PJT	環境教育	西村 日出男 E mail : sun246ra@mbox.kyoto-inet.or.jp	952-3718 FAXも同じ
エコチームPJT	地球温暖化防止	田原 誠一郎	953-1696
ビオトープPJT	ビオトープ	小根田 勝信	957-4081
花を咲かそうPJT	花を咲かそう	湯川 智子	952-5505
竹林再生PJT	竹林再生	湯川 圭造	090-8759-1757
環境の都づくり会議 代表	活動全般	江川 宗治 E mail : egawam@kyoto.zaq.ne.jp	957-6169 FAXも同じ

事務所：多世代交流ふれあいセンター内 (〒617-0812 長岡京市長法寺谷山13-1)

環境の都づくり会議のホームページを作りました。各PJTの活動内容と写真などが有ります。是非ご覧ください。
アドレス= <http://kankyonomiyako.jimdo.com/>

「環境の都づくり会議」では、さらなる活動の飛躍を期して活動協賛金を募っております。協賛金：一口年間1000円(一口以上) あなたも「長岡京市環境の都づくり会議」に参加してみませんか。どなたでも参加できます。連絡、問い合わせは上記プロジェクトの連絡先へ下さい。

編集後記：山本さんから代わって、西村が編集を担当させていただきました。なにぶん不慣れで、面割りに苦労しました。読者のみなさま方から「声」をお寄せ頂ければ、大変に励みになります。私たちはこの歴史のまち長岡京市を「環境の都」にしたいとの想いで活動しています。ご一緒に活動してみませんか。